

ワールドマスターズ国際大会（WMG）の招致について

平成 25 年 4 月 25 日

本部事務局

1 当面の対応方針（3 月 28 日連合委員会）

- WMG 協会(IMGA)会長あてに、①WMG の関西への招致に向けた検討作業を進めていくこと、②8 月のトリノ大会を見てさらに検討を深めたいうえで招致について判断すること、を内容とする返書を発出する。
- 当面の検討体制として、招致に伴う課題と対応、開催計画（競技種目、開催会場や財政計画等）の内容等について検討するためのプロジェクトチームを立ち上げる。

2 IMG A 会長あて返書

① 返書の骨子（案）

- ・ 日本招致に係る格別の配慮への謝意、招致に向けた検討に入っていることを伝える書簡である
- ・ 関西で開催することの意義
健康志向の活力ある高齢社会の実現、観光関連産業・文化の活性化、国際交流の促進、青少年に対する生涯スポーツの啓発など
- ・ 開催地としての関西の魅力
スポーツ施設、文化・観光資源、ホスピタリティ、ボランティア・スタッフなど人的資源など
- ・ 現在、招致に向け、開催提案書案の作成に向けた検討を進めており、その検討状況を見極めながら、最終調整作業としてトリノ大会へ視察団を派遣し、より高い完成度を伴った開催提案書(finalized Games proposal)を提出する

② 発出の期限

5 月上旬目途

3 検討プロジェクトチームの設置

① 構成メンバー

本部事務局、広域観光振興局、
各府縣市スポーツ担当課、各府縣市観光担当課

② 検討事項

- ・ S C 関西が提案する開催提案書の内容の精査
- ・ トリノ大会視察計画の作成及び視察準備
- ・ 招致する場合に組織する組織委員会及び事務局体制の検討 等

* 開催提案書原案、提案書の作成作業は S C 関西が担当し、これを本部事務局及び兵庫県教育委員会が各府縣市の協力を得てサポートする。

4 トリノ大会視察の進め方

① 視察団メンバー（*今後調整）

連合長又は副連合長、関係委員、事務局、SC関西 ほか

② 日程

大会期間中（8/2～8/11）の必要な期間 *調査内容等により検討

*現地取材等については、現地旅行会社の活用を検討

5 当面のスケジュール

4月25日	当面の方針及びIMGA会長あて返書の協議
4月 末	プロジェクトチーム立ち上げ、検討着手
5月上旬	返書発出期限
6月下旬	開催提案書原案作成、連合委員会で協議
8月上旬	トリノ大会視察
～	連合委員会で方針協議、最終判断

<3月28日連合委員会における主な論点と考え方：SC関西の意見>

Q1 想定される3万5千人の参加人数は延べ人数ではないのか。

A1 想定人数は、種目ごとの参加人員である。複数種目参加の場合はダブルカウントになるが、基本は、延べではなく実際の参加者数と言える。

Q2 陸続きの欧米や米国とは異なり日本での開催で、3万5千人の参加が確保できるか。

A2 日本同様に大陸間移動を要するオーストラリアで3大会開催されており、相当数の参加実績があった。参加促進の努力を行うことにより達成は可能ではないか。

1994年 ブリスベン 71国 25,000人

2002年 メルボルン 97国 26,000人

2009年 シドニー 95国 32,000人

Q3 費用対効果をどう考えるか。大きな効果は期待できないのではないか。

A3 選手の家族も含め相当数の来訪が期待でき、スポーツ関連産業や観光関連産業へ大きな効果が期待できるのではないか。

のみならず、関西魅力の対外発信、健康志向のライフスタイルの普及、生涯スポーツの先進地としての関西づくりなど、高齢社会を先導する関西スタイルの構築につながる効果が大きいのではないか。

また、IMGAのアジアの拠点となれば、さらに効果が継続するのではないか。

Q4 WMGの認知度は低い。情報発信力は期待できないのではないか。

A4 主催者として積極的なPRを行うなど国内やアジアにおける認知度向上に努めることにより、情報発信力を高めることが可能ではないか。

(返書案)

2013年4月25日

国際マスターズゲームズ協会

Kai Holm 会長

冒頭にあたり、貴国際マスターズゲームズ協会の主導するワールドマスターズゲームズの発展、および大会理念である「Sport for All」の世界的普及に向けた推進活動と御努力に心から敬意を表します。

本書は、2012年10月10日の日付文書で頂戴しました、2021年ワールドマスターズゲームズ日本招致に関する格別のご配慮とご提案への感謝の意と共に、関西広域連合として、2021年招致に向けた検討に入っていることをお伝えするためのものです。

関西広域連合は、府県域を越えた行政課題に取り組むことを目的として、日本における関西圏内の7府県（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、徳島県、鳥取県）と、その府県内4都市（京都市、大阪市、堺市、神戸市）により構成された特別地方公共団体であり、観光・文化振興や産業振興を含めた各種の広域振興事業を通じ、西日本の拠点として、国内・アジアにおける人的、文化・産業交流の活性化を目指しております。

ワールドマスターズゲームズは、世界各国から一般成人・中高年スポーツ競技者が一同に集結する生涯スポーツの世界最高峰の大会であり、個々人の活動的なライフスタイルとアクティブエイジングの推進、活力ある高齢社会の実現、観光に関わる産業・文化の活性化、国際交流の促進、青少年に対する生涯スポーツ啓発等に寄与する大会として認識されています。これらの開催効果は、関西広域連合の観光・文化振興や産業振興の主要事業として大会招致を実現することにより益々顕在化していくことが見込まれ、関西広域連合の各構成団体ももつ豊富なスポーツに関する物理的・文化的資源、参加選手や同伴家族を魅了する様々な観光資源とホスピタリティ文化、高齢化と共に急増する中高年スポーツ実施人口、さらにはスポーツ大会ボランティア・スタッフに代表される人的エネルギー資源、これらの全てを融合した広域共同開催により、第10回記念にふさわしい歴史的大会を開催することが期待できます。さらに、アジア初の開催により、本大会を真の世界的規模のレベルに発展させ、マスターズスポーツ文化のアジア発信拠点として、ワールドマスターズゲームズ開催による遺産(レジェンド)を形成していく可能性も有しています。

関西広域連合では、2021年ワールドマスターズゲームズ招致に向け、現在は開催提案書案の作成に向けた検討を進めておりますが、その検討状況を見極めながら、最終調整作業として今年8月に開催されるトリノ大会へ視察団を派遣し、大会の現地調査・情報収集と共に、会長を含めたIMGA理事の方々からの開催提案書原案に対するアドバイスを頂き、高い完成度を伴った開催提案書として提出させて頂きたい意向です。

ワールドマスターズゲームズの2021招致に対する我々の強い熱意をご理解頂き、今後のより良いパートナーシップに向け、貴協会からのさらなるご支援を宜しくお願い致します。

ワールドマスターズゲームズのさらなる発展を祈願して。

関西広域連合連合長

兵庫県知事

井戸敏三